



ワンコイン
ブック

他た力りき

四
衢
亮



東本願寺出版

他^た

力^{りき}

四^{よつ}

衢^{つじ}

亮^{あきら}

他力本願？

「他力たりのきほんがん本願じゃだめなの、自力じりきじゃないと」。一般的にはこうした使われ方をする「他力」や「自力」という言葉。辞書でも他力本願について、「もっぱら他人の力をあてにする」とあり、自力本願という言葉は、「自分ひとりの力で本望を達成すること」とあります。

しかし、真宗の教えで言われる他力・自力という言葉は、他人か自分かということではありませんし、私ごとちらかを選ぶということでもありません。

ある時、「自分で動かそうと意識しないのに心臓が動いてくれる、胃や腸なども何も考えてなくても全力で私を生かしてくれる、まったく自分の力でなく他力ですね」と言う方がいました。確かに、そうした働きに支えられて私たちは生きています。しかし、意識せずとも働く自律神経が他力だということではありません。時が来れば衰えたり、失われるものが他力と言われているのではないのです。また、日の光、田畑うらわを潤す水や雨、空気